

Tuuli

トゥーリ

2013年12月15日発行

今年もあと数日で終わろうとしています。皆様の一年はどのようなものでしたでしょうか？誰にでも公平に一年は廻り、それに伴いからだも変化してきます。今のからだの状態を少しでも向上させる、あるいは長く維持するためにも、今日の一日一日を大事に過ごしていきたいものです。今年も大勢の皆様のご支援をいただき、ありがとうございました。来年もまたどうぞよろしくお願ひいたします。

マーガレットサロン主催講演会のお知らせ フィンランドの楽しみ方Ⅵ ～二期の参議院での活動を振り返って～

至誠ホームは、北欧フィンランドとのつながりを強く持っているホームです。そこで毎年この時期に地域の方に向けて開催しているこのマーガレットサロンも、今年で6回目となりました。

今回レクチャーして下さるのは、青い目の前国会議員ツルネン・マルテイさんです。これまでの豊富な経験をもとに、フィンランドと日本との比較を通じて、その生活や文化についてお話ししていただきます。「これからの原発問題は?!」「肉食中心の生活習慣って?!」こうした話題から私たち日本人は多くの気づきがあるはず。ボランティアの皆様どうぞご参加ください。

- ◆ 日時 : 2月6日(木) 14:00~16:00
- ◆ 場所 : 至誠ホーム センター2階 ホール
- ◆ 内容 : 至誠ホームのご紹介と取り組みについて・・・至誠ホーム ホーム長 橋本 正明
ご紹介・・・橋本 ライヤさん
お話「二期の参議院での活動を振り返って」
～フィンランド生まれの前国会議員 日本を語る～
- ◆ 定員 : 70名(申込締切:2月5日)
- ◆ お問い合わせ・お申込み : ボランティアコーナーまで Tel:042-527-0035
- ◆ 入場 : 無料

どうぞ皆様お誘い合わせのうえ、お申し込みください。なお当日は上履きをご持参ください。

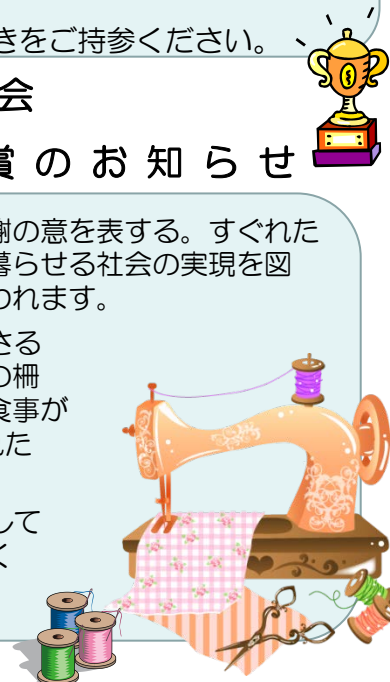
第62回東京都社会福祉大会

東京都社会福祉協議会会長表彰状受賞のお知らせ

「多年にわたり社会福祉の発展に功績のあった社会福祉関係者を表彰し、感謝の意を表する。すぐれた活動内容を紹介することで、福祉活動の普及・推進を行い、だれもが安心して暮らせる社会の実現を図る」という趣旨で、毎年東京都社会福祉大会で、ボランティアさんの表彰も行われます。

今年はハウスキーピングで活動をして下さっている吉崎武子さんが受賞なさることになりました。吉崎さんは利用者が安全に移乗するための移乗布、ベッドの柵に体が当たってもけがをしないようなカバー、食べこぼしを心配せずご自分で食事ができるようなエプロン、骨折した折に履く巻きスカート、上下2ピースに分かれた浴衣など工夫を重ねて、いろいろな介護用品を作っています。

このような長きに渡って利用者の日常生活を支えて下さっていることに対して感謝状が贈られます。おめでとうございます！そしてこれからもどうぞよろしくお願ひいたします。



体操教室ボランティアさん募集のお知らせ

生活アクティビティで体操教室を行っています。特養でのフロア体操、和光・スオミケアハウスの利用者を対象にした転倒予防体操をお手伝いいただける方を募集します。

- ◆ 日時：毎週木曜日 13:15~16:15
 - ◆ 場所：特養各フロアのテイルーム、センター2階ホール
 - ◆ 活動内容：道具の準備・移動、会場設営（椅子の準備）
体操教室の補助（一緒に体操をしてください）
利用者の見守り、送迎など
- お問い合わせはボランティアコーナーまでどうぞ。



企業の社会貢献活動

12月11日（水）日本GE株式会社GEキャピタルから15名の方々が、社会貢献活動の一環で至誠ホームにお越しくださいました。午前中は4つのチームに分かれ、玄関回りのすす払いやケアプラザ周辺の落ち葉掃き、記念館周辺の清掃をしていただきました。残り1チームはけやき広場で焼き芋の準備です。大勢の方が一度に掃除をしていただいたおかげであっという間に何袋もの枯葉が集められました。また玄関のクモの巣などもきれいに取り払われました。スオミレストランで昼食後、待望の焼き芋大会です。

デイホームやスオミから大勢のお年寄りご参加くださり、「おいしい、おいしい！」と大満足でした。錦のボランティアさんのお力もお借りし、ケーナの美しい響きとともに楽しい一日となりました。どうもありがとうございました。

失語症 — その4 — 相手を知ることが大事!

失語症の方とコミュニケーションをとるうえで気を付けることがいくつかあります。

① 急がせないこと。

これが一番大事です。私たちも急がされると上手く話せないことがあります。唯でさえ言葉が出にくいのに「早く言って」という態度をとられると萎縮してしまいます。「時間はあるから、ゆっくり話してもいいんですよ」ということが伝わるように心がけてください。失語症の方と話すときは時間に余裕を持ちましょう。

② 間違いを指摘しないこと。

失語症では言い間違いをすることがあります。「それ違います」「間違えている」と間違いを指摘することはやめてください。やっとの思いで出せた言葉を否定されてしまうと「できない」「伝えられない」という思いを強く感じてしまいます。それが積み重なって「どうせ伝わらないから話したくない」ということにも繋がっていきます。

③ 何が得意なのか知ること

2回目「言えないけどわかっているのよ!」で紹介したように相手の話は理解できても言葉で答えられない方は、「Yes-No」で答えられるように問いかけます。また、言葉での声掛けも大事ですが、文字を読むことが比較的得意な場合、声掛けとともに文字で見せるのも1つの手です。言葉でも文字でも伝えるのが難しい方は実物やジェスチャーを交えると伝わりやすいです。

④ 相手のことを知ること

日常生活でも「おい、アレ」「はい」と熟年夫婦の会話のように、よく知っている人の言いたいことややりたいことが何となくわかることがあります。好きなものなどを知っていると会話の幅も広がったり、答えが予想しやすかったりします。ただし、根掘り葉掘り細かいことまで情報収集してくださいということではありません。

⑤ 聞き返すことも大事。

思っていることとは違うことを言うてしまうことや頷くけれど上手く伝わっていないことがあります。重要なことなどは「～でいいですか?」というように確認することも大事です。

⑥ 五十音表は使わない。

ひらがなは「あ」とか「い」など音を表しています。そして失語症の方は音を思い出すのが難しいので五十音表を見ても分からないことがあります。

失語症の方は自分のできること全てで相手に伝えようとされています。ですが、十分伝わらないことが多々あります。そんな時は、分かったふりをするのではなく、「上手く読み取れなくてごめんなさい」と正直に伝えた方が良いと思います。少なくとも失語症の方には「ちゃんと話を聞いてくれようとした」ことは伝わっています。その積み重ねが信頼にも繋がっていきます。(生活アクティビティ 笈川)

発行 社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホーム 統括事務局 企画調整 ボランティア担当 寺澤・加藤

連絡先 〒190-0022 東京都立川市錦町6-28-15 Tel: 042-527-0035 Fax: 042-527-2646
E-mail: shisei-volunteer@shisei.or.jp HP: <http://www.shisei.or.jp>